



筑波大学人間学群 障害科学類

College of Disability Sciences 2021
School of Human Sciences, University of Tsukuba

障害を理論的・科学的に探求する。
共生社会の実現に貢献する。

障害科学

障害のある人、高齢者、共に暮らしやすい社会を作りたい。
歴史学・社会学・社会福祉学・社会学・臨床心理学・生理学・医学・脳科学・心理学・特別支援教育学

障害のある人、高齢者、共に暮らしやすい社会を作りたい。
歴史学・社会学・社会福祉学・社会学・臨床心理学・生理学・医学・脳科学・心理学・特別支援教育学

手話や点字を勉強したい。
歴史学・社会学・社会福祉学・社会学・臨床心理学・生理学・医学・脳科学・心理学・特別支援教育学

バリアフリーな社会を目指したい。
歴史学・社会学・社会福祉学・社会学・臨床心理学・生理学・医学・脳科学・心理学・特別支援教育学

特別支援教育や社会福祉に興味がある。
歴史学・社会学・社会福祉学・社会学・臨床心理学・生理学・医学・脳科学・心理学・特別支援教育学

子や人と関わってみたい。
歴史学・社会学・社会福祉学・社会学・臨床心理学・生理学・医学・脳科学・心理学・特別支援教育学

多様な学問の融合から、新たな学問へ そして社会に貢献する人材育成へ

教育目標

乳児から高齢者までの感覚、運動、認知、言語などの機能の障害、健康や高齢・発達に関わる障害、障害をめぐる環境や社会・文化的課題に関する基礎的知識と支援方法を、教育・心理・福祉・医療などの領域から総合的に身に付け、共生社会の創造に貢献する、国際的に通用する能力をもつ人材を養成します。

コンセプト

障害科学類は、障害を探究し、人間の本質を探究し、人類と社会に貢献する人材を育てる、わが国では他に類を見ないユニークな学類です。障害のある人々への具体的なサポート、その基盤となる基礎的な研究、そして人間の本質そのものを探究します。

特徴

- ・学生の関心や目標に応じた **3つの履修モデル**
- ・**特別支援学校教員免許状**では、5つの教育領域（視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱）に関する免許の取得が可能
- ・**社会福祉士国家試験受験資格**の取得が可能
- ・**教職免許** 特別支援学校／高校（福祉）／その他、中学校・高校の教科

目次

障害科学類の教育目標	27
障害科学類のコンセプトと特徴	27
学類長あいさつ	28
障害科学の歩み	28
3つの履修モデルと取得可能資格	29
4年間の履修の進め方	30
教員紹介	31
研究室紹介	32
授業紹介、海外留学、研修	33
障害科学類生による学生生活、学類紹介	35
卒業後の進路	37
進路実績	37
附属学校・関連組織	39
入試情報	40

学類長あいさつ

岡 典子



障害科学類には、ふたつの目的があります。

ひとつは、障害のある成人や子どもたちの日常生活や学校教育、社会参加等を支援できる専門家を育成することです。

もうひとつは、障害に関する知識をき

かけとして、そもそも人間とは何か、社会とはどうあるべきかといった普遍的な思考をもち、行動できる人材を育てることです。わたしたちの社会は、さまざまな特性や個性をもつ人びとによって成り立っています。障害もそうした特性のひとつです。障害のある状態は人間にさまざまな制約をもたらしますが、そうした制約を軽減し、乗り越えるために必要な知識や技術を特別支援教育学、心理学、生理学、福祉学、社会学などの複合的学問体系から追究するのが障害科学です。

障害は決して特別な現象ではありません。世界保健機関（WHO）は、障害とはすべての人間がもつ健康状態の連続体であると定めています。障害のある人が幸福の追求に困難を感じる社会が、じつは万人にとっても過酷な社会であることも、人類の長い歴史からわかっています。だからこそ、障害について学び、考えることは、単なる知識の深化や技術の獲得にとどまらず、人間と社会の本質を探究し、すべての人が共に生きる社会を志向するための羅針盤となるのです。

人類と社会に貢献する人材を育てる障害科学類で、ともに住みやすい社会をつくる学問を探究しませんか。

障害科学の歩み

1951年、わが国最初の障害児教育の専門学科である東京教育大学教育学部特殊教育学科が設置されました。1973年の筑波大学への移転を機に、特殊教育学科は心身障害学へと転換しました。心身障害学では、それまで学童期中心の障害児教育から、乳幼児から高齢期までの障害児・者の生涯に渡る総合的支援へと研究領域が拡大されました。さらに2007年、心身障害学は、障害科学に名称を変更し、教育学、心理学、医学・生理学、社会福祉学等を含め、障害の科学的解明と障害児・者の支援を目指す総合的な分野としてスタートしました。



カリキュラムの特徴 3つの履修モデルと 取得可能資格

障害科学類では、学修の参考のためにいくつかの履修モデルを示しています。履修モデルは、その通りに授業をうけなければならないものではありません。ただし、資格と関係する履修モデルは、必要科目が過不足なく含まれていますので、モデルが基準になるでしょう。履修モデルを基に、学ぶ人の希望と意欲に沿った学修計画を立て、自主的に学ぶことになります。

障害科学履修モデル

障害科学類の基本的な履修形態です。障害科学の全体的な理念・概念の理解を基に、障害科学が包含する特別支援教育、障害心理・生理、障害福祉等の全領域に関して、視覚障害学、聴覚障害学、言語障害学、運動障害学、健康・高齢障害学、知的・発達・行動・情緒障害学の基礎的な知識や技能を修得します。さらに、この分野を新たに開拓していくための研究方法の学修として、臨床研究、実験や調査、文献研究等で用いられる多様な技術の基礎を修得します。



特別支援教育学履修モデル

わが国における特別支援教育に関わる先導的な研究・教育を担う専門家の養成を目指すものです。特別支援教育とは、これまでの特殊教育において培ってきた専門性及び新たに求められる専門性に依拠して、障害がある幼児児童生徒はもとより、さらに地域における発達障害などの教育的ニーズに応じた指導・支援を行うという、いわば新たな学校教育の枠組に基づく教育といえます。特別支援教育学履修モデルでは、障害科学類の充実した人的資源を活用して、特別支援学校教諭一種免許状に対応した豊富な科目群を設け、履修者に特別支援教育に関わる広い教養と深い専門性を身に付けさせることを意図しています。障害科学類では、5つの教育領域（視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱）すべてを担当できる特別支援学校教諭免許状の取得が可能です。



社会福祉学履修モデル

社会福祉学を探究するとともに、社会福祉士を目指す「社会福祉学履修モデル」を設定しています。現代の社会福祉が対象とする高齢者、障害児者、及び、家庭養育環境や発達に伴う生活問題を抱えた子どもたちについて、ノーマライゼーションという福祉理念を実現するための施策や援助方法を、包括的かつ科学的に学修します。また、従来の社会福祉学の枠組を越えて、「障害」をめぐる教育や医療・リハビリテーションとの連携について、社会福祉の現場実習を含めて融合的に学修します。指定された科目を履修することにより、社会福祉士国家試験受験資格を得ることができます。



1年・・・障害科学履修モデル・・・4年

共通科目	専門科目
人間学、体育、外国語、情報	自閉症スペクトラム障害臨床実習、重複障害の理解と支援、聴覚障害とリテラシー、高齢障害学、卒業研究Ⅰ・Ⅱ、日本の障害科学、など
専門基礎科目	
障害科学Ⅰ・Ⅱ、障害科学実践入門、障害原理論、障害者福祉論Ⅰ・Ⅱ、障害者教育基礎理論、Current Topics in Disability Sciences、障害科学研究法入門・実習	
関連科目	
心理学概論、教育基礎論、学校の経営・制度・社会、キャリアデザイン入門・自由研究、人間フィールドワークなど	

1年・・・特別支援教育学履修モデル・・・4年

共通科目	専門科目
人間学、体育、外国語、情報	特別支援学校教諭免許取得に必要な専門科目、視覚障害教育概論、聴覚障害児の教育と指導法、運動障害教育学、健康障害の指導法、知的障害学校教育論、特別支援教育実習など卒業研究Ⅰ・Ⅱ、日本の障害科学、など
専門基礎科目	
障害科学Ⅰ・Ⅱ、障害科学実践入門、障害原理論、障害者福祉論Ⅰ・Ⅱ、障害者教育基礎理論、Current Topics in Disability Sciences、障害科学研究法入門・実習	
関連科目	
心理学概論、教育基礎論、学校の経営・制度・社会、キャリアデザイン入門・自由研究、人間フィールドワークなど、中学校・高等学校教諭免許（教科）取得のための学群内外の科目の履修など	

1年・・・社会福祉学履修モデル・・・4年

共通科目	専門科目
人間学、体育、外国語、情報	社会福祉士国家試験受験資格取得に対応した専門科目、相談援助の理論と方法、相談援助の基礎と専門職、ソーシャルワーク演習、ソーシャルワーク実習など卒業研究Ⅰ・Ⅱ、日本の障害科学、など
専門基礎科目	
障害科学Ⅰ・Ⅱ、障害科学実践入門、障害原理論、障害者福祉論Ⅰ・Ⅱ、障害者教育基礎理論、Current Topics in Disability Sciences、障害科学研究法入門・実習	
関連科目	
心理学概論、教育基礎論、学校の経営・制度・社会、キャリアデザイン入門・自由研究、人間フィールドワークなど	

障害科学を学ぶモチベーションを高め、学びの基礎を整える

1年
障害科学の基本的な原理を学び、実践現場を見学・参観し、障害科学探究のモチベーションを高めます。また、障害科学を構成する専門分野を知ること、障害科学を全体的に理解できるようにします。

基礎的能力を身に付け、将来の進路を考える

2年
各専門分野の基礎を学び、障害科学の方法を知ること、自らの修学の到達目標や卒業後の進路を志向します。

障害科学の研究・基礎的実践技術の習得

3年
さまざまな演習や実践を通じて、障害科学の研究手法の基礎を習得したり、自分の選んだ進路に応じ、特別支援教育、社会福祉、発達臨床などに関する実践能力の基礎を身に付けます。また、こうした研究・実践技術に関するカリキュラムは、大学院人間総合科学研究科(前期課程)へ進学し、6年間で習得することを想定して作られています。是非、大学院進学を志してください。

障害科学全般にわたる基礎的能力の養成

4年間の履修の進め方

教員紹介

多様な障害種別、研究手法を網羅するスタッフ陣



研究室紹介

専門家、研究者としてのキャリアにつながる充実した研究環境

視覚障害学

柿澤 敏文 弱視児（者）の視覚特性と ICT、視覚障害原因、アジア・アフリカの視覚障害
小林 秀之 視覚障害児の学習活動に対する教育的支援
佐島 毅 視覚障害学、重複障害児の心理と教育
和田 恒彦 理療（鍼、灸、あん摩マッサージ指圧）科教育、スポーツ障害、障害者スポーツ
緒方 昭広 ペインクリニック領域の鍼灸・手技療法

徳竹 忠司 視覚障害者への理療技術指導法・東洋医学的物理療法（理療）の生体反応
濱田 淳 理療教育に関する研究、泌尿生殖器系疾患に対する鍼治療
宮内 久絵 視覚障害教育、インクルーシブ教育
ラミチャネ・カマル 諸外国における障害と教育、雇用の連関に関する研究

聴覚障害学

鄭 仁豪 聴覚障害児・者の言語・認知・社会性の発達に関する心理学的研究
原島 恒夫 聴覚障害児（者）の聴覚情報処理、早期教育に関する臨床発達心理および環境論的アプローチ

加藤 靖佳 聴覚障害者の音声・聴覚・音楽・コミュニケーションに関する研究
左藤 敦子 聴覚障害教育、聴覚障害児の言語・認知の発達に関する心理学的研究

知的・発達・行動障害学

柘植 雅義 特別支援教育推進に関する教育学的・行政学的研究／学校における指導・授業に関する教育学的・心理学的研究
熊谷 恵子 学習障害児の学習支援（算数困難等）に関する研究、発達障害児者の感覚過敏に関する研究
野呂 文行 発達障害児の行動心理学的研究
岡崎 慎治 知的障害児及び発達障害児の注意機能に関する生理心理学的研究
小島 道生 知的障害児及び発達障害児の自己に関する研究、ダウン症児者の発達支援に関する研究

米田 宏樹 知的障害教育、インクルーシブ教育、学校・施設・カリキュラム開発史の研究
佐々木 銀河 大学における障害学生支援、発達障害児者に対する支援技術、スタッフトレーニング・マネジメント
趙 成河 自閉症スペクトラム症児への応用行動分析的アプローチ
石塚 祐香 発達障害児に対する応用行動分析学に基づくコミュニケーション発達支援

運動・健康・高齢障害学

竹田 一則 障害児の医学・生理学・心理学的研究、障害学生支援に関する研究
川間 健之介 運動障害児者の心理、指導法の研究

山田 実 加齢に伴う身体機能低下の予防（介護予防）に関する研究

音声・言語障害学

宮本 昌子 小児の言語発達障害に関する研究、吃音、cluttering など発話の非流暢性障害に関する研究

三盃 亜美 先天性・後天性の読み書き障害に関する認知神経心理学的研究

障害原理論

岡 典子 障害者教育・福祉に関する歴史研究、障害と社会・文化に関する研究、東アジアのインクルーシブ教育に関する比較研究

障害福祉学

小澤 温 障害者に対するケアマネジメントとその評価に関する研究
八重田 淳 職業リハビリテーションカウンセリングに関する研究
山中 克夫 認知症の人のための心理・社会的アプローチ
名川 勝 障害者の地域生活支援と権利擁護、知的障害者等の意思決定支援、大学における障害学生支援

森地 徹 当事者の視点を生かした障害者の地域生活支援に関する研究
大村 美保 障害者の雇用・就労障害者の雇用・就労、所得保障、および地域生活支援
河野 禎之 認知症や LGBTQ を含む多様な属性の人と社会に関する心理・社会的研究、ダイバーシティ&インクルージョン

柘植研究室



私たちの研究室では、知的障害のない発達障害、知的障害、行動障害、それらを重複する場合に関心があり、その理解や指導・支援に関する研究を行っています。また、より広く、特別支援教育やインクルーシブ教育、制度やシステム、障害のない人への対応、保護者への支援、一般市民の理解啓発等、「周りの環境」に関する研究も盛んです。研究対象は、就学前から学童期、青年期、成人期まで様々で、海外の学校や施設をフィールドにした研究や国際比較研究も。研究方法は、事例研究、調査研究、実験研究、質的研究、文献研究等様々。そして、研究成果が如何に実践の場で活用できるか（Evidence-Based Practice and Policy）という点を大切にしています。研究室の構成員は、学類（学部）、大学院博士課程の前期・後期、研究生、研修生と多彩で、年齢も国籍も様々。研究室のセミナーは、毎週全員が一堂に会して行い、個別の研究相談もしています。研究室は、お互いを認め合い寄り添い合う雰囲気でもち溢れ、その上で、研究は一生懸命にきちんと！構成員の人数も多いことから、仲間同士の教え合いや研究上の悩み事相談などもなされています。

大村研究室



私たちの研究室では、障害のある人の地域生活支援に関する研究を行っています。具体的には、障害者の雇用・就労に関する研究や、障害者虐待防止における基礎自治体の体制整備に関する研究、非行・犯罪行為のある障害者への支援などが最近のテーマです。このような、社会における平等、参加、貧困、社会的排除、虐待、地域での孤立といった現代社会における諸課題の多くは、社会福祉学が対象としています。週1回開催される研究会では、それぞれの知識や能力を持ち寄り、よりよい研究に洗練できるよう、質問や指摘、意見交換を活発に行っています。また、見学・訪問、研修会への参加、経験のある現場職員との意見交換など、実践現場とのつながりを大事にしています。人の生活や社会は複雑であり、標的を明確にして問題構成を浮かび上がらせるのは決して簡単なことではありませんが、苦労してまとめた研究成果をもとにして新たな政策展開が行われるときには、非常に大きなやりがいと達成感を感じます。一つひとつの研究はささやかなものかもしれませんが、障害のある人たちやその支援者・機関に対して研究を通じた貢献ができるよう、日々の研究活動を行っています。

岡崎研究室



私たちの研究室では、注意欠如多動症（ADHD）などの発達障害のあるお子さんの認知発達とその評価の方法、支援の方法について研究を行っています。大学に相談に来られるお子さん等にご協力頂き、認知やその発達にどのような特徴があるのかを調べるために、検査やテストを用いたり、一緒に学習や遊びを通した支援について考えたりするとともに、その開発にかかわるような基礎的な実験を行ったりもしています。また、行動からではわかりにくい認知の働きを調べるために、脳の電氣的活動を測定（脳波）したり、脳血流の測定をしたりもしています。このように、障害のある人々に関する基礎研究と応用研究を通して、知的発達や認知発達の特徴や独特さを知り、理解や支援につながるような活動を行っているのが研究室の特徴といえるでしょう。学生の皆さんも基礎だけ、応用だけではなく、それぞれの研究活動に関与しながらご自分の研究を進めています。表面的には特徴や困難さがわかりにくい発達障害の理解や支援に興味がある方は、ぜひ障害科学類でその学びを深めていただきたいと思います。

授業紹介

米田宏樹准教授「知的障害学校教育論（指導法）」 3年 岸良隼人



私は本学類で「特別支援教育学モデル」を選択し、特別支援学校教育論の免許資格の取得を見据えた履修計画をもとに学習等を進めています。このコースを経て、障害科学類の授業および他学類の授業に臨み、教員に求められる幅広い領域の知識・理解を深めることを目標としています。例えば2年次の秋学期に受講した「知的障害学校教育論（指導法）」では、学習指導要領解説やVTRを活用した授業を通して、知的障害教育に関する教育課程や授業実践などについて学習し、基礎的な概念から教育現場等の少々込み入った話まで、様々な知見を得ることができました。米田先生のユーモアに溢れる巧みな授業は、その豊富な情報量で圧倒されるものの、課題等へ取り組む中で授業内容を反芻することで、効果的に学習を進めることができます。インクルーシブ教育の目指すべきかたちについて多様な考え方が錯綜する中で、「本当に必要な共生とは何か」について考える、よいきっかけとなった授業です。

大村美保助教・森地徹助教「ソーシャルワーク演習Ⅰ」 3年 青山奈央



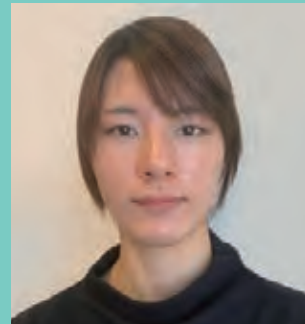
私は社会福祉士の資格を取得したいと現在考えています。そのための勉強をする中で、ソーシャルワークに必要とされる理念や技術が、実際にはどのように用いられているのかを知りたいと考え、この授業を受講しました。この授業では、ソーシャルワーカーの支援における考え方、面接や記録の技術を、ディスカッションやグループワークを通して学びます。自分で学んだ技術を体感できるのはもちろん、先生方から実際に仕事をする際のポイントについてのお話を聞くことや、自分の思考の傾向について改めて考える機会とすることもできます。ソーシャルワークで用いる考え方や技法というのは、人と人の間で用いられるものであるだけに、座学だけでは理解が難しい部分というのがあります。そのため、実際に技術を使いながら学んだり、自らの価値観について考えることのできるこの授業は、ソーシャルワークについて学ぶ上で、大変有意義な授業だと思います。

ソーシャルワーク実習 4年 浦邊日菜子



私は社会福祉士を目指しており、社会福祉学に関する講義を受講しています。講義を受ける中で「貧困」に関心を持ち、生活保護の窓口を担う福祉事務所での実習を決めました。実習では、生活保護を受給する方への居宅訪問の同行や実際に面接もさせて頂きました。現場の様子を目にし、触れる中で、相談者が主体となって課題に取り組めるよう働きかけることが社会福祉士の役割であることや、それを実際に行うことの難しさを学ぶことができました。日々新しい発見や学びがあり、とても充実した1か月間であったように思います。自分の将来についても以前は漠然としていましたが、実習を通して、将来どのような形で福祉に携わりたいのか具体化することができました。病院や障害者支援施設等で実習を行った友人も同様に、多くのことを学ぶことができたと話しています。様々な実習先がありますが、どの実習先を選択しても、自身の考えや価値観に大きな刺激を与えてくれる大変貴重な時間になると思います。

卒業研究 2019年度卒 前川祐里奈



卒業研究では、認知症ケアを専門としている山中克夫研究室で、介護現場でのよりよいケアの実践のために高齢者の笑顔を客観的に評定する方法について研究しました。卒業研究では、自ら問いを立て、調査をし、結果をまとめていくことになりますが、既に他の人が同じような研究をしていないか、研究の結果は役に立つのか、といった視点も必要になります。入学してからも、講義を受ける中で興味を広げていき、テーマを探していくことができます。約1年間かけて取り組んでいくことになるので、慎重に決めたいところです。私は研究を進めていくうえで、分析の方法やまとめ方について分らず苦労しました。しかし、指導教員の先生方や所属する研究室のメンバーにもアドバイスを頂き、同期の友人などと協力し合いながら興味のある分野の研究を進めていくことはとても意義のある経験になりました。卒業論文が完成した時の達成感は忘れられません。障害科学類は教員の研究分野も幅広く、きっとやりたい研究ができると思います。ぜひ皆さんも障害科学類で研究をしましょう！

海外留学、研修

障害科学類では、筑波大学や人間学群で交流協定を結んでいる海外の大学に留学する機会を設けています。協定校への留学は以下の大きなメリットがあります。

- ・留学期間は、本学での在籍年限に換算される
- ・授業料相互不徴収に関する協定を締結している協定校であれば、相手大学での授業料が免除
- ・留学先で履修した単位が本学の卒業条件となる単位に認めることが出来る
- ・学内外の奨学金に申請可能

協定校の例：ドイツ・ミュンヘン大学、米国・南インディアナ大学、韓国・釜山大学他多数。
詳しくはHP（<http://www.kokuren.tsukuba.ac.jp/GP/gplist.html>）をご覧ください。
これ以外に、海外研修にも積極的に参加しています。最近では中国、韓国、ロシア、台湾の大学を訪問しました。

障害科学研究法 4年 稲葉史華



障害科学研究法では、春学期に「入門」を行い、秋学期に「実習」を行います。「入門」では、文献研究、質・量的調査研究、事例研究、生理心理実験研究、視・聴覚機能評価、心理評価について、各研究法の特徴や方法、手順について学びます。「実習」では、「入門」での講義に沿って、各研究法を実際に行っていきます。「実習」は大学院博士後期課程の学生がインストラクターとなっ

て、授業を進めてくださいます。「実習」では実際に自ら体験しながら学んでいくため、「入門」の講義でイメージしづかった部分も、しっかりと理解することができ、多くの学びを得ることができます。聴覚機能評価法では、聴力検査機器を扱ってみたり、生理心理実験では、脳波をはかってみたりなど、初めて体験することも多く、また実習後には、各研究法についてレポートにまとめ添削を受けることで、レポートの書き方も上達していきます。限られた授業時間の中で行うので、深く研究を行うことはできませんが、様々な研究法について触れることで、自分のやってみたい研究を見つける良いきっかけになると思います。

特別支援教育実習 4年 中村初音



3年次の9月、教育実習生として過ごした筑波大学附属聴覚特別支援学校での3週間は、私の人生において最も濃密な3週間でした。実習中、授業や子どもたちとのやり取りで毎日悩み、落ち込みましたが、それ以上にたくさんの学びを得ることができました。先生方からは、「ことば」に常にアンテナを張り、幼少期からひとつひとつ丁寧にことばの指導を行う大切さと楽しさを教えていただきました。また、子どもたちからも、丁寧に話すこと・聞くことの大切さや、できることは周りに教え、できないことは教わる姿勢、みんなが楽しめる鬼ごこの方法など、たくさんのことを学びました。特別支援学校での3週間は、きっとたくさんの壁にぶつかります。しかし教育実習は、昨日より今日、今日より明日と驚くようなスピードで成長する子どもたちと、深く関わることができる素晴らしい機会です。たくさんの困難を自分の力で乗り越えた時、必ずその経験は皆さんの大きな糧になると思います。応援しています！

アメリカ・オハイオ州立大学短期研修 3年 山本響平



2年次にアメリカのオハイオ州立大学で行われた短期研修に参加しました。特別支援学校や研究施設の見学、大学での講義などを通してアメリカの特別支援教育や福祉について学びました。私は普段、大学で特別支援教育を学んでいますが、アメリカの特別支援教育について知り、日本と比較する中で問題意識が生まれ、学びに対する意欲が高めることができました。特に印象的だったのは特別支援学校の見学でした。教員以外に理学療法士、作業療法士といった様々な専門職が学校に勤務しており、コラボレートしながら教育が展開されていることを知り、感銘を受けました。自由時間には現地の学生さんたちの案内で市内をまわり、アクセシビリティの状況や健常者の障害のある人への態度など、実際に現地に行かなければわからない様々な発見をすることができましたし、アメリカの文化に思う存分触れることができました。アメリカの特別支援教育について知りたい、英語力の向上、とにかく海外に行きたい…どんな目的であっても、確実に刺激的な体験ができます。高い英語力がなくても大丈夫なように様々なサポートをしてくれるのもこのプログラムの特徴です。ぜひ参加してみてください！

人間学群国際化プロジェクト 3年 羽田野航太



私は2018年12月に、人間学群国際化プロジェクトというプログラムで台湾の国立嘉義大学に行きました。現地では、大学生との交流や、附属の小中学校への授業見学をしました。特に授業見学では、台湾と日本の教育課程の違いを直接目にすることができ、良い経験となりました。実習内容は、主に教育学類の内容で、障害科学とは分野が少し異なるところがありましたが、教育学は特別支援教育に密接な関係があります。特別支援学校の教員を目指している私にとって、海外の教育現場を見られたことは大変貴重な経験になりました。その他にも、昼休みに昼寝をすることなど、文化の違いも体験できました。海外への渡航は、勉強はもちろん、現地の文化、風土、食べ物に直接触れるよい機会です（特に、台湾の食事は最高です！）。筑波大学には、この他にも、交換留学や長期留学など、海外に行ける環境が整っています。海外に行きたいけれど不安や迷いがあるそこのあなた、筑波大学の制度を活用して海外に飛び出してみませんか？

専門を学びながら、様々な挑戦ができる学生生活

4年 館下智子



私は、この学類には障害科学研究における全国随一の環境があると思い、進学しました。入学当初は、専門分野が未定でしたが、講義や附属支援学校見学を経て、「特別支援教育を学んでみたい!」という思いが強くなり、現在小学校教諭と特別支援学校教諭、2種類の免許取得を目指しています。私の場合、他学類との交流も多く、刺激を受けながら大学生活を送っています。

また、課外活動では、障害を違う視点で捉えたいと思い、難民支援サークルと更生保護活動団体、そして歌留多部に所属しています。紛争地には障害があることでさらに生活が困難になる人がいたり、非行と障害は関連があったりと一見無関係な分野であっても、自分の専攻分野との接点を発見できました。大学は自分の専攻分野を学ぶだけでなく、より多くの視野を広げる場でもあると思います。ぜひ私たちと一緒に筑波大学で学びましょう。

やりたいことが実現できる学び

3年 浅子綾美



私は現在、小学校教諭と特別支援学校教諭の2つの教員免許取得を目指しています。入学当初は社会福祉士を目指していたのですが、障害科学類の講義を受け、子どもたちが楽しく授業を受けている様子や先生方の「障害」に対する思いを目の当たりにし、教員への道を選ぶと決めました。障害科学類では、特別支援学校の教師を目指すこと、社会福祉士を目指すこと、そのどちらかが実現可能です。自分のやりたいこと、

将来の夢は何かを考え、真っ直ぐに進めば必ず実りある学びができると思います。初等の授業でも特支の授業でも、子どもたちの様子を何う度にキラキラした笑顔が見れます。履修モデルを変えるにあたり、多くのことに悩み、何度も考え直しましたが、周りにいる友人や先生方に相談を重ね、教職の道を選べたことは後悔していません。障害のある子どもたちのそばで自分にできることをしたいと考えていた私にとって、現在進行形で取り組んでいる学びのどれもが充分すぎるくらいに素敵なんです。障害科学類では自分のやりたいことが実現できる学びを得られると思っています。みなさんにお会いできること、楽しみにしています。充実した大学生活を送ってください!

障害科学類で充実した学びを

4年 須賀健也



皆さんは「障害」という言葉を聞いてどんなことを思い浮かべますか? 私は、障害科学類で学び始めてから「障害」に対するイメージが大きく変わり、また思っていたよりもずっと身近に考えなくてはならないことだと感じています。この学類は、特別支援学校の教員や社会福祉士などの具体的な目標を持って入学する学生が多いと思われがちですが、私のように人と人との関わ

りについて様々な観点から幅広く学んでみたいといった方にも、とてもおすすめです。また、障害科学類は少人数であるため、先生方や学生同士との距離が近く、とても温かいアットホームな雰囲気の中で学ぶことができます。最後に、皆さんが障害科学類という日本では他に類を見ない、ユニークな場所です。学びは、高校生までの学びとは少し違った非常に興味深いものとなると思います。ぜひ、一緒に障害科学類で充実したキャンパスライフを送りましょう!

専門性の高い学びを仲間とともに

4年 池田遥香



皆さんこんにちは! 筑波大学の障害科学類は、全国にも類を見ない専門性の高さを誇り、各領域たくさんの先生方がいらっしゃるため充実した授業を受けることができます。私自身、ここ筑波大学障害科学類でしか学べないことがあるのではないかと考えています。入学時点で将来専門的に研究したいことが不透明であっても大丈夫! どの授業も基礎から丁寧に教えていただけま

す。また、学類生は皆本当にあたたく、切磋琢磨できる存在です。自分とは違う専門領域を学ぼうとしている人、新しい道を歩もうとしている同志、たくさんの人がいますが、このような仲間とはここでしか出会えないと思います。これもこの学類の専門性の高さゆえかもしれません。様々な経験を持つ先生方や友人とすごす大学生活は、このパンフレットを読んでくださっているあなたにとっても必ずや有意義なものとなるでしょう。春の陽気の中、キャンパスのどこかでお会いできるのを楽しみにしています。

障害科学類生による 学生生活、学類紹介



学びは大学の外でも

4年 高野惣一



現在、私は社会福祉学履修モデルで学業に動んでいます。新しく知る概念や現状の社会福祉制度に、驚きと疑問を抱く毎日が続いています。もちろん、授業後に先生方に直接質問をすることもありますが、より時間をかけて学びを深めたい、と思う人も多いはず。そんな時はクラス担任中心とした先生方に相談してみましょう!

先生が持つコネクションはとても幅広く、実際に私もいくつかの講演会紹介や現場見学をさせてもらいました。機会を頂く度に興味関心はさらに深まり、大学の授業がもっと生かされる結果となりました。さらに、人間学群では人間フィールドワークという授業があり、その授業に位置づけられる研究会として学校の授業の一環で福祉現場の見学ができます。学類の仲間と同じ現場を見て感じたことを共有するのも良いでしょう。大学は座学だけではない。「見て・聞いて・考える」ができる環境を皆さんも是非楽しんでみて下さい!

学生の「やってみたい」を応援してくれる T-ACT

4年 山口和紀



私はT-ACTという、学生の「やってみたい」を応援する学生支援組織のサポーターとして活動しています。障害科学類生は、T-ACTを利用して、福祉関係のイベントを主催する人が多いです。私の主催したソーシャルデザインの講演会や、障害のある兄弟/姉妹をもったきょうだいへの支援の講演会、障害の有無に関わらずスポーツを楽しむためアダプテッドスポーツのセミナーな

どは、障害科学類生が中心になった企画です。それぞれの企画で、友人たちがプランナーやボランティア、参加者として積極的に行動しているのが印象に残っています。あなたもT-ACTを使えば、たくさんの人を巻き込み、社会を変える一歩を踏み出せるかもしれません。私たちも、障害科学類の先生たちも、それを応援します。机の上の勉強だけでなく、能動的に「学問をする」環境が整っているのが障害科学類の強みです。いつか、あなたとT-ACTで出会えるのを心待ちにしています。

やりたいことが出来る環境

2年 高岡杏



私は重度の運動障害を持っていて、授業は運動障害支援チームからピア・チューターを派遣してもらい、ノートテイクを頼んでいます。また、ヘルパーを利用して学生宿舎のバリアフリーが整っている部屋で一人暮らしをしていたり、周りの方々に助けてもらいながらの大学生活ですが、とても楽しいです。私は教職課程なので特別支援教育についてや、ほかの学群に教科の科目

を取りに行ってます。教職以外の福祉系の科目も取ることができるので、自分の興味の幅が広がることが障害科学類の魅力だと思います。先生に教えていただいた交流会などに参加してみることも自分が知らなかった世界が発見でき、おすすめです。また、私は学園祭実行委員会の委員長を務めていて、全学規模で色々なことを見ることは大変な部分もありますが、一生に一度の経験だと思うので楽しみながらやっています。このように大学生活はやろうと思えばなんでも出来るので、みなさんも色々なことにチャレンジしてみてください!

筑波大学は全国の障害学生支援の中心

4年 武石龍基



筑波大学には多くの障害のある学生が在籍しており、彼らの学生生活を支援する仕組みがあります。その中の一つにピア・チューター制度というものがあります。これは講座を受講してピア・チューターとして認められた筑波大学の一般学生が障害学生の学修のサポートをする支援制度です。障害支援チームは聴覚、視覚、運動に分かれて障害に合わせた支援を学生が主体となって

行っています。また、大学説明会の障害学生説明会や新入障害学生のサポートなど講義の他にも活動があり、時に障害学生も協力して取り組み、一般学生と障害学生の交流もあります。私も身体障害があり手足に麻痺があるためノートテイクの支援を受けておりとても助かっています。ピア・チューター制度は支援する学生にとっては障害と直に接し支援する経験を得ることができる貴重な場です。障害について専門的に学べて実践的な支援活動も経験できる障害科学類で、実りある大学生活を、ぜひ私たちと過ごしてみませんか。

卒業後の進路

各履修モデルと 取得可能免許・資格

障害科学履修モデル

本学には障害科学に関するわが国で最も整備された大学院（人間総合科学研究科）があり、学類卒業後には進学することを勧めています。近年、障害関連職種での専門化が進み、大学院修了資格を有するより専門性の高い人材が求められています。進学以外の進路としても、一般社会での障害者の活躍が進み、そのための支援の充実が広がる中で、障害に関連した種々の職種の中で専門家としての知識・技能の発揮が期待されています。教職課程を履修すれば、教員免許状の取得も可能です。大学院では、学校心理士、臨床発達心理士などの申請資格を取得することが可能であるほか、自閉症スペクトラム支援士の実践歴が得られます。

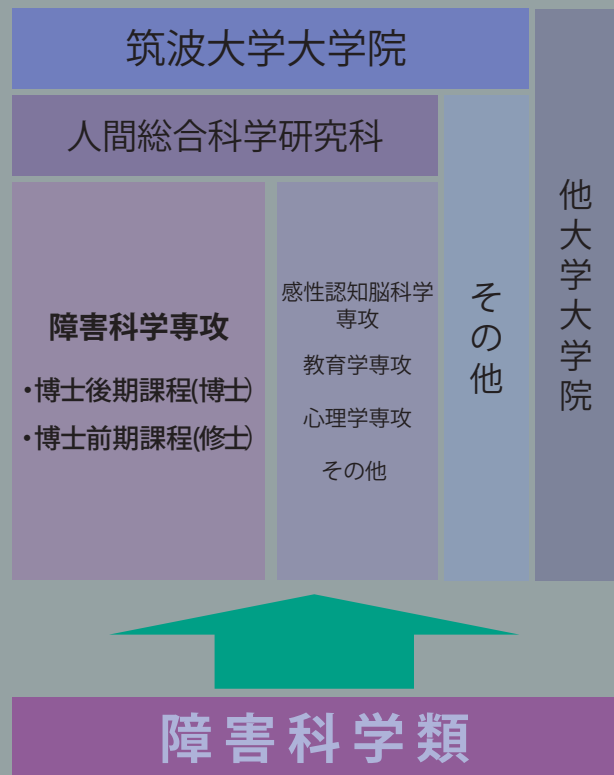
特別支援教育学履修モデル

主として特別支援学校及び小・中学校などの特別支援学級の教員のほかに、国家公務員、地方公務員に就くことを想定しています。また、本学大学院（人間総合科学研究科）への進学も勧めています。学類と大学院との一貫したカリキュラムの履修により、進学者は専修免許を取得し、より専門性の高い教育者・研究者となることを目指すことができます。

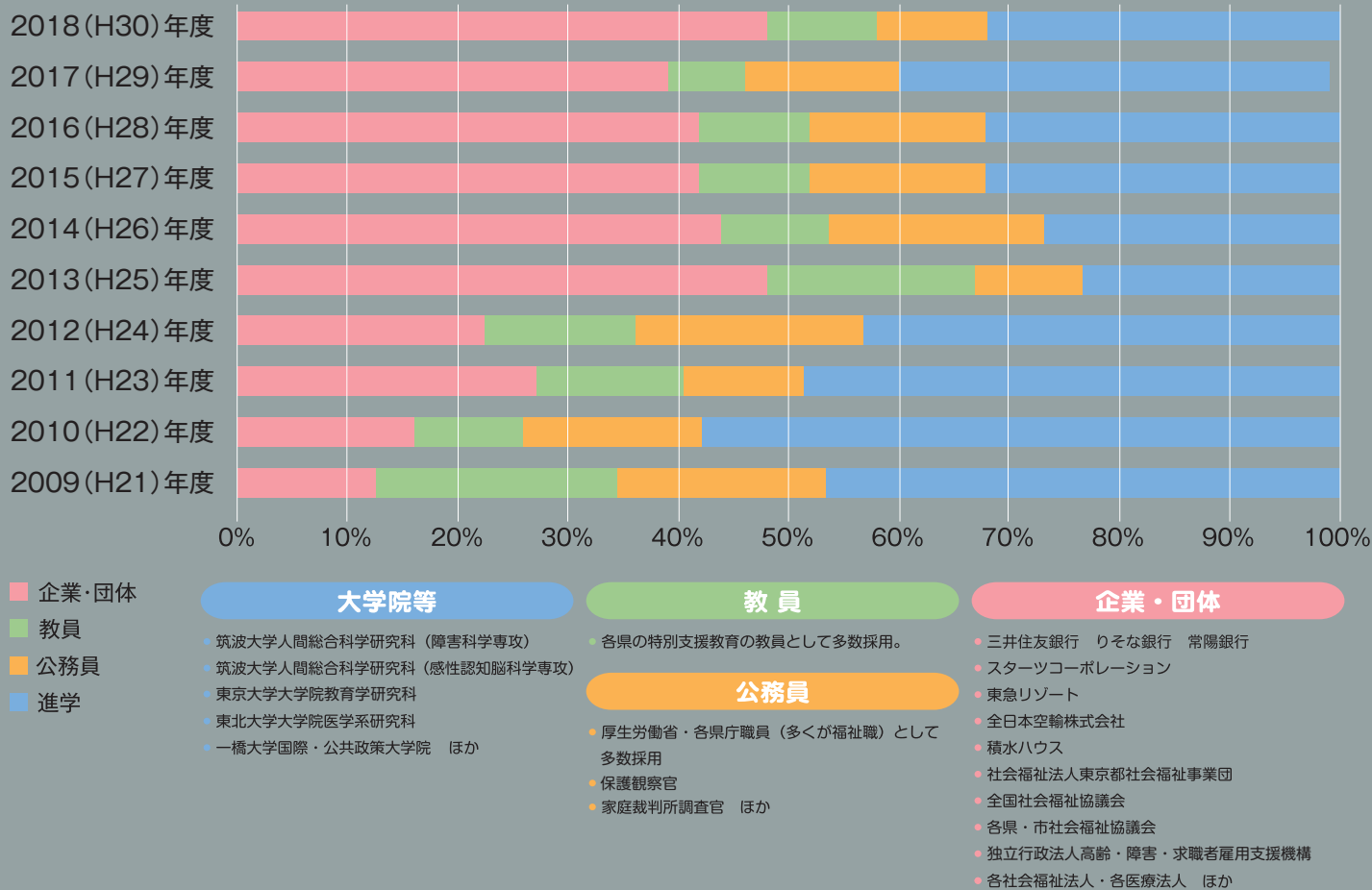
社会福祉学履修モデル

指定された科目を履修することにより、社会福祉士国家試験受験資格を得ることができます。福祉系の国家公務員・地方公務員、社会福祉協議会、教員、障害者・高齢者・児童等の福祉専門職、シルバーサービス関連の一般企業等、福祉の専門性を生かした職種の中で、専門家としての知識・技能を発揮することが期待されています。もちろん、本学の大学院（人間総合科学研究科）への進学も可能です。

学類生の大学院進学先



進路実績 主な進学・就職先（障害科学類・人間学類心身障害学主専攻）



平成 5 年度卒 武居 渡 ■ 大学教員



筑波大学人間学類に入学し、その後大学院心身障害学研究科へ進み、その後、金沢大学教育学部へ赴任しました。卒論では、手話も日本語も習得していない離島に住む就学経験のない高齢ろう女性の自発した身振りを分析するために、このろう者と2か月間ほぼ一緒に生活しました。自分の手で何かを明らかにする面白さに惹かれ、大学院に入学しました。筑波では自分の専門の障害だけでなく、あらゆる障害について学ぶことができます。現在大学で勤務をしていると、私の専門である聴覚障害だけでなく、他障害についても助言を求められたり、学校へ呼ばれたりすることがあります。その時、様々な障害について学んだ知見が役に立っています。また、大学では学生への教育や研究だけでなく、様々な社会貢献も求められます。私は2015年度から2017年度まで、NHKの「みんなの手話」の監修を引き受け、手話について社会に何を知ってほしいのかを考えるいい機会になりました。何より大学では経験できない世界をのぞくことができました。大学ではぜひ自分の専門を深く学んでください。そして他障害の研究をしている先生や同級生とたくさん議論してください。きっとその経験が卒業後に自分の血や肉になると思います。

平成 26 年度卒 伊藤 詩織 ■ 特別支援学校教員



私は千葉県にある聴覚に障害のある生徒達が通う特別支援学校で英語を教えています。聴覚に障害があるという点、全く耳が聞こえない生徒に教えている印象を与えるかと思いますが、実状は異なります。残っている聴力を活用する生徒やほとんど耳が聞こえない生徒など様々な生徒と一緒に学習しています。そのため、それぞれの生徒に合った表現方法や伝達手段が必要となり、日々の工夫が欠かせません。どうすれば英語を理解して好きになってもらえるか、と考えながら授業を行っていますが、試行錯誤の毎日が続いています。

しかし、このような教員生活の中でとても役に立っていることがあります。それは障害科学類で特別支援教育に必要な5領域（知的障害、視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、病弱）の内容を全て学ぶことができたことです。現在の特別支援教育は生徒一人一人のニーズに応えることが求められており、多様な視点から生徒を見る目が重要です。例えば授業一つを考えるだけでも、聴覚という観点からだけでなく、視覚的なこと、学習障害に関することなど他の障害領域と合わせて考えた方がよい場合が多くあります。その際、障害科学類での幅広い学びが、専門だけでは見えてこなかった可能性を示唆し、新しい授業の展開を模索するきっかけを与えてくれています。また、障害科学類では学生の時から実際の教育現場を見る機会がたくさんありますので、理論だけでなく実践的に学ぶことができます。そのおかげで生徒自身を見ることが大切であるという姿勢を作ることができ、今でも生徒と向き合うことを第一に生徒と関わっています。

今思い返すと、このように障害科学類での学びは、特別支援学校で勤務する私に大切なことを教えてくれるだけではなく、私を支えてくれる糧になっていると言っても過言ではなく、本当に魅力的な学類だと感じています。

平成 19 年度卒 田原 敬 ■ 大学教員



私は現在茨城大学で主に障害児生理に関する授業や聴覚障害に関する授業を担当しており、将来特別支援学校の教員を目指す学生の指導にあたっています。また、聴覚障害者のきこえに関する実験を中心とした研究活動を行っています。障害科学類には2つの特色があると思います。まず、自分の専門領域について非常に深く学べることです。障害科学類では、障害領域ごとに先生方が複数名ずついらっしゃるので、1つの障害についても様々な角度から学ぶことができます。私は聴覚障害を中心に学んでいましたが、聴覚障害児の読み書き能力に関する内容から、聴覚障害児のきこえや発音に関する内容まで、とても幅広く学ぶことができました。また、防音室や聴力検査機器などの設備も充実しており、不自由なく研究活動に取り組むこともできました。大学に在籍していた当時は当たり前だと感じていましたが、今振り返ってみると、自分の専門領域についてここまで深く学べる環境は全国的にも非常に珍しいかと思います。その一方で、自分の専門領域以外についてもしっかりと学ぶことができるということも特色の1つだと思います。大学教員として働く中で、様々なニーズを持つお子さんと接する機会が増え、自分が学んできた聴覚領域以外の知識も必要となる場面が増えてきました。その際に、「これってあの先生が授業で話してたよな…」と思い出すことや、「友人がこのテーマについて研究してたよな…」と思い出すことが問題解決のヒントになることも少なくありません。知らず知らずのうちに他の障害に関する知識が身についたのも、障害について総合的に学べる障害科学類の学びの特徴だったと感じています。このように、障害について「広く・深く」学ぶことができることが障害科学類の大きな魅力だと思います。

平成 22 年度卒 仲本 ひろ美 ■ 茨城県庁福祉職



現在、私は茨城県長寿福祉課で、介護保険に関わる市町村への事務支援や介護従事者の研修業務に携わっています。茨城県でも、少子高齢化が進展する中で、高齢者の方が住み慣れた地域で安心した生活が継続して送れるような取組が求められています。また、行政として、高齢者だけではなく、児童・障害と広い福祉分野に携わることになります。以前、私は児童相談所に勤めていましたが、実際に子ども本人や保護者に会い、養護・虐待・非行等の相談に対応してきました。例えば、虐待ケースであっても、その背景には、経済的な問題があったり、子どもに発達障害等の育てにくさがあったり理由は様々であり、1つとして同じケースはありません。ケースに応じて、市町村・学校・病院・警察など多様な機関と連携をして対応をしていく必要があります。そして、私自身が感じることは、どの分野においても、「何かしてあげたい」という“気持ち”だけではなく、実際に制度の中で「どのようなことができるのか」という“広い知識”が必要になります。

私は障害科学類で、社会福祉モデルを履修し、社会福祉士の資格を取得しましたが、熱心で優しい先生方の指導のもと、障害に関する知識や支援の方法を身につけることだけではなく、教育・心理・福祉などの多領域についても学ぶことができました。また、履修カリキュラムにより、障害・福祉の枠を超え、自分の興味のある他の学類の科目が履修できることも、特徴のひとつになります。

広く学び、様々なニーズに対応した支援ができる社会福祉士になれるということは、筑波大学の障害科学類ならではの魅力だと思います。

平成 20 年度卒 横井 麻里子 ■ 家庭裁判所調査官



大学卒業後、家庭裁判所調査官という仕事に就きました。家庭裁判所は、離婚など家庭内の紛争を解決する家事事件と罪を犯した未成年者の処分を決める少年事件を扱っています。これらの事件は、単に法的な解決だけでなく、その背後にある人間関係や環境を考慮した解決を図る必要がありますので、家庭裁判所調査官が、心理学や社会福祉学などの専門的な知識を生かしながら調査や調整をしています。

離婚紛争中の当事者や非行を犯した少年など、人生の岐路に立たされている人たちに向き合うことになるので、私たちの関わり方によっては、家族の紛争解決や少年の更生の機会を失う可能性もあり、日々重い責任を感じています。一方で、彼らの人生を大きく左右する場面に立ち合い、関わる中で、紛争解決が見えたときや、変化を感じられたときはやりがいを感じます。

障害のある子どもの養育を巡って争いになる夫婦であるとか、非行の背景に子ども自身の発達障害があったなど、障害の知識が必要となるケースも多くあるので、大学で障害について一通り勉強したことが、今の仕事にも大きく役立っています。障害科学類は、とにかくさまざまな分野の先生方が揃い、総合的に障害について学ぶことができる贅沢な環境にあります。そのため、自らの興味、関心に応じ、専門性を深めたり、広げたりすることができ、教育、福祉等の分野だけでなく、私のように司法の分野であったりと、多方面での将来につなげることができる、魅力的な学類であると思います。

附属学校 関連組織

附属学校

筑波大学には、11の附属学校のうち5つの特別支援学校があり、大学と連携して教育活動をおこなっています。見学や授業参観、そしてボランティアなどを通して障害のある子どもと彼らへの支援の実践について理解を深めることができます。



附属大塚特別支援学校（東京都文京区）
<http://www.otsuka-s.tsukuba.ac.jp/>



附属久里浜特別支援学校（神奈川県、横須賀市）
<http://www.kurihama.tsukuba.ac.jp/>



附属視覚特別支援学校（東京都、文京区）
<http://www.nsfb.tsukuba.ac.jp/>



附属聴覚特別支援学校（千葉県、市川市）
<http://www.deaf-s.tsukuba.ac.jp/>



附属桐が丘特別支援学校（東京都、板橋区）
<http://www.kiri-s.tsukuba.ac.jp/>

関連組織

以下の関連組織もあります。

- 1 附属学校教育局
<http://www.gakko.otsuka.tsukuba.ac.jp>
- 2 教育開発国際協力研究センター
<http://www.criced.tsukuba.ac.jp/>
- 3 心理・障害相談室（筑波キャンパス）
<http://www.human.tsukuba.ac.jp/IDS3/counsel/outline.html>
- 4 ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター（アクセシビリティ）
<http://dac.tsukuba.ac.jp/shien/>

筑波大学では全学で100人以上の障害のある学生が学んでおり、トレーニングを受けた学生が「ピア・チューター」として支援活動に携わっています。入学式や大学説明会などでもピア・チューターが活躍しています。



ピア・チューター養成講座の様子

入試情報

推薦入学試験（定員12名）

書類選考・小論文・面接

実施時期（11月下旬）

前期日程（定員17名）

大学入学共通テストの利用教科・科目名

実施時期
（1月中旬）

個別学力検査

実施時期
（2月下旬）

国	国語
地歴	世B、日B、地理B
公民	現社、倫、政経、倫・政経
数	数I・数A、数II・数B、簿、情報から1
理	物基、化基、生基、地基から2 または物理、化学、生物、地学から1
外	英

国	現代文B・古典
地歴	世B、日B、地理Bから1
公民	倫
数	数I・数II・数A・数B 数I・数II・数III・数A・数Bから1
理	物基・物、化基・化、生基・生、地基・地から1
外	英
その他	集団討論

1教科選択
（事前選択）

[5教科6～7科目]

詳細については、「入学者選抜要項」（7月）、「学生募集要項」（9月）、及び大学ホームページで必ず確認してください。（入試の最新情報はトピックにも掲載しています）

後期日程（定員3名）

大学入学共通テストの利用教科・科目名は前期日程と同じです。個別学力検査は集団討論を行います。

筑波大学ホームページ（入試情報）

<http://www.tsukuba.ac.jp/admission/>

入試についての問い合わせ先

筑波大学教育推進部入試課

TEL:029(853)6007

高校生のための大学説明会

毎年8月と3月に、筑波大学において高校生のための大学説明会を行っています。全国から多くの高校生が集まって、プレセミナーを通して障害科学を実体験します。最新の情報は障害科学類ホームページのトピックをご覧ください。



筑波大学までの交通

■つくばエクスプレス：

- ・秋葉原駅からつくば駅まで最速45分
- つくばセンターから「筑波大学中央」行バス（約10分）
- 「筑波大学循環（右回り）（左回り）」バス（約10～15分）

■JR常磐線：

- ・ひたち野うしく駅 バスターミナル東口から「筑波大学中央」行バス（約45分）
- ・荒川沖駅 バスターミナル西口から「筑波大学中央」行バス（約35分）
- ・土浦駅 バスターミナル西口から「筑波大学中央」行バス（約30分）

■高速バス：

- 東京八重洲南口から「筑波大学」行高速バス（約75分）

■自動車：

- 常磐自動車道「桜土浦」I.C.下車、「東大通り」を北上し、筑波大学中央入口 到着（約15分）



筑波大学

●筑波大学中央

循環バス
約10分

つくばセンター



College of Disability Sciences
School of Human Sciences, University of Tsukuba

2021

筑波大学ホームページ(入試情報)
<http://www.tsukuba.ac.jp/admission/>
入試についての問い合わせ先 筑波大学教育推進入試課

人間学群障害科学類
<http://www.human.tsukuba.ac.jp/ids/shougai>